

平成 28 年 6 月 30 日  
国際審判 田畑 喜彦  
(愛知県ボート協会)

## 2016 Asia and Oceania Olympic Qualification Regatta in Chungju, Korea 審判参加報告

### 1. はじめに

このたび、4 月 22-25 日の日程で韓国・忠洲の Chungju Rowing Center において開催された 2016 Asia and Oceania Olympic Qualification Regatta に審判参加させていただきました。

本大会には日本から男女軽量級ダブルスカルクルーがリオ・オリンピックの出場枠獲得を目指して参加していました。既報のとおり日本クルーは共に出場枠を獲得し、最終日選手、監督・コーチは日本から応援に駆け付けた多くのご家族、関係者と大久保日本ボート協会会長らに祝福され、満面の笑みを浮かべていました。(写真-1,2)



今回の報告ではレースや審判に関わらない施設・運営面などの紹介も含めて報告したいと思います。

### 2. 会場と宿舎

今回大会が開催された Chungju Rowing Center は朝鮮半島の中央部忠州市に位置し、上下流二つのダムにより流れが制御された人造湖である Tangeum Lake に位置する静水コースです。2007 年にはアジア選手権が開催され、その後 2013 年の世界選手権開催に向け現在の施設が整備され、2012 年にはプレ大会として لندنオリンピックのアジア大陸予選、2013 年には世界選手権、2014 年アジア大会、2015 年ユニバーシアード大会、そして今回の大陸予選と毎年国際大会が開催されています。この間に培った国際大会の運営ノウハウはアジア No.1 といっても過言ではないでしょう。

今回審判団に用意されたホテルは会場から車で 30 分程度、忠州市内にあるリバーホテル(写真-3、怪しげな雰囲気)でしたが、食事は多くの選手が滞在したグランドホテルのため、朝晩徒歩で約 10 分弱の距離を歩く必要がありました。またルームメイトはインドからやってきた Sandeep GUPTA でした。

### 3. 審判団について

今回の審判団は日本から千田隆夫氏を審判長に FISA より発表されたリストは、全 14 名(写真-4)であった。国内 NTO は各所に固定され、多くの国際大会の経験から ITO の補助も手慣れたものでした。

Jury President			
SENDA	Takao	FISA	1230
Jury Members			
DIZON	Marciano III	PHI	1492
GUPTA	Sandeep	IND	1536
KHAING	Mon Mon	MYA	1655
KHOSRAVANI	Maryam	IRI	1668
LIANG	Bing	CHN	1503
MAO	Ying-Hai	TPE	1578
NAM	Sang Lan	KOR	1683
NG	Wing Ning	HKG	1441
SENAKHAM	Tanormsak	THA	1661
TABATA	Yoshihiko	JPN	1265
TRAN	Thi Hong Bich	VIE	1580
WEBSTER	William	AUS	1630
HWANG	Young Sang	KOR	1634

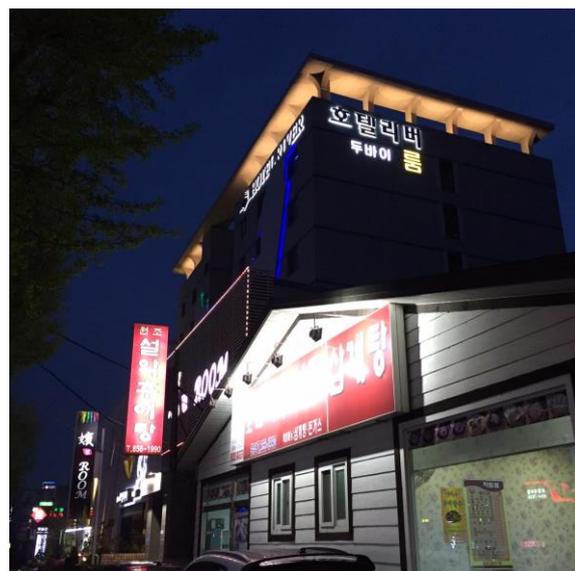


写真-3 滞在したホテル



写真-4 審判団

### 4. コース、関連施設について

#### ① 発艇エリア

発艇エリアは伴走路からスタートフィンガーで接続されており、線審小屋、発艇小屋含めアクセスが可能である。主審艇はスタートフィンガーの中央部からレースを追航できる。(写真 5,6,7)



写真-5 スタートフィンガー



写真-6 発艇等

今回 TBS クルーが LM2X 中野選手の取材で訪韓していた。初日発艇にいた私に、どこでの取材までが許されるか確認があった。希望は発艇、線審小屋屋上、スタートフィンガー上などであり、国内大会であればある程度の規制がかけられる。今大会 Technical Director の Mike Tanner に確認したところ、答えは明確であり「2 分前まではどこで撮影しても OK。但し 2 分前コールがかかったら動くな。」であった。これにより発艇エリアにおける各種アングルで取材がされた。後日放映されると思うが、視聴するのが楽しみです。



写真-7 主審艇位置



写真-8 発艇システム

発艇システムは意外にシンプルで、光発艇装置を使うものの、タイミングは発艇横にいる NTO が Starter に合わせ別ボタンで操作を行った。また Judge at the start は静止画ではなく目視で行っていた。(写真-8)

## ② 判定塔

判定塔は 3 階建ての建物、1 階は ITO のミーティングルーム、2 階が判定席である。(写真-9)写真判定装置を使用し、部署責任者

である Res. of the Judge at the finish はモニタの正面に座り、画像による判定である。(写真-10)



写真-9 判定塔



写真-10 判定状況

### ③ 艇計量、選手計量

艇計量、選手計量ともにボートハウス内で実施した。艇計量用のスケールには種目名、国別の Abbreviation Code 等が入力されており、簡単に印字できるように用意されていた。(写真-11)

選手計量エリアは選手のプライバシーを配慮し、衝立の仕切りで待機者との区画がされている。予備スケールは本スケールと同規格のものが用意されている。(写真-12,13) なお、アウト・インポンツーン前には Control Commission 用の待機小屋が用意されていた。ここにはエアコンが取り付けられており、今大会では必要なかったが盛夏の大会には威力を発揮する。(写真-14)



写真-11 艇計量所



写真-12 選手計量所



写真-13 テストスケール



写真-14 C.C.待機小屋

#### ④ 主審艇

今大会では4艇の主審艇が配備された。FISAの審判セミナーでは主審艇に備えておくものとして救命浮環はもちろんのことであるが、エンジントラブル時の緊急脱出用として「オール」が登場する。さて、韓国の主審艇はどうかと確認したところ、固定用のフックにきちんと収まっていた。（写真-15）

#### ⑤ その他

夏季大会で仮設トイレ使用、意外に苦痛を伴う経験ありませんか？今回大会で用意されていた仮設トイレは男女一体型でした。男性用には小便器3、大便器2、そしてエアコンが設置されていました。（写真-16）以前にシンガポールの大会に参加した際、個室内にファンが設置されているのに感心したのですが、今回の会場で用意されていたものにはトイレ先進国、仮設トイレ後進国の日本として、東京オリンピックではおもてなしの心でぜひともこのレベルまでは整備してほしいなと感じました。



写真-15 主審艇のオール



写真-16 仮設トイレ

### 5. 審判業務について

今回の審判業務は4日間で4カ所でした。順を追って紹介します。

#### ① 4月22日：Starter

本会場でのStarterは2007年アジア選手権に次ぐ二度目でしたが、当時からはコースも世界選手権に向けて整備され、スタートフィンガーも世界標準仕様でした。陸から発艇、ポートホルダー、線審小屋まで徒歩によるアプローチが可能であり、トラブル対応も含め運営面では優れています。審判に当たっては、線審の白ランプが初日は機能しなかったため白旗を使用したぐらいで特に問題はありませんでした。発艇塔はなぜか4レーンと5レーンの間に配置されていましたが、1レーン側からの風の影響を避けるため使用レーンは7レーン側へ振ったため、結果としてほぼ中央に発艇塔が位置することとなりました。

② 4月23日：Umpire2

主審艇はよく整備されており特に問題はなし。他の審判とも話す中では各ドライバーは英語を話さず、身振り手振りで指示をしていました。

③ 4月24日：Athlete Weigh, Boat Weigh

オリンピック大陸予選に出漕するクルーにより競われる大会のため、設備面が問題なければ特に問題は生じませんでした。NTOも国際大会慣れしており、スムーズに審判業務の補助を行っていました。

④ 4月25日：Umpire4

最終日、Final AでML2Xの主審でした。残念ながら日本は中国に次ぐ2着でしたが、見事リオ・オリンピックの出場枠を獲得しました。最終レースとなったWL2Xは1,900m付近水上に待機し、日本クルーが韓国・ベトナムを抑え、見事1着でゴールするところを見守ることができました。

## 6. 審判試験、セミナー

今回大会期間中21、22日に開催されたFISA審判試験には台湾1名、日本1名がチャレンジし、上田良史氏（兵庫県所属）が見事合格されました。（写真-17）国内勉強会での事前学習、自己研鑽が見事実り、日本人16人目のFISA審判員です。これから東京オリンピックはじめ各種国際大会での活躍が期待されます。

また、23、24日にはFISA Umpiring Commission ChairのPatrick ROMBAUT（BLG）、MemberのNick HUNTER(AUS)、日本の千田隆夫氏によるセミナーが開催され、大会参加審判、韓国FISA Umpire、そして日本から応援に駆け付けた関係者もPatrickらから歓迎され、セミナーに参加しました。（写真-18）

## 7. 最後に

今回の大会ではリオ・オリンピックの出場枠を見事獲得する瞬間を選手に最も近いところから見届けることができました。出場枠を勝ち取った選手たちのオリンピック本大会での活躍を願ってやみません。

最後になりましたが、今回の大会に派遣いただいた日本ボート協会木村理事長、相浦事務局長、上野審委員長、千田国際委員長他関係のみな様方に深く感謝申し上げます。 以上



写真-17 前列右が植田氏



写真-18 セミナー参加者